

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	近畿大学工業高等専門学校
設置者名	学校法人近畿大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
総合システム工学科	機械システムコース		0	5	43	48	7	
	電気電子コース			5	59	64	7	
	制御情報コース			5	32	37	7	
	都市環境コース			5	68	73	7	
専攻科 生産システム工学 専攻	機械工学			24	12	36	7	
	電気電子工学			24	24	48	7	
	情報工学			24	14	38	7	
	土木工学			24	24	48	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.ktc.ac.jp/cms/syllabus/">https://www.ktc.ac.jp/cms/syllabus/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	近畿大学工業高等専門学校
設置者名	学校法人近畿大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ <a href="https://www.kindai.ac.jp/files/about-kindai/overview/organizational-chart/organizational-office04.pdf">https://www.kindai.ac.jp/files/about-kindai/overview/organizational-chart/organizational-office04.pdf</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前職：株式会社顧問 (2019. 6. 25～2023. 12. 31) 現職：株式会社役員 (2016. 5. 30～現在に至る)	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	企業役員経験者として法人 全体の指導・助言
非常勤	前職：株式会社役員 (2020. 6. 25～2023. 6. 28) 現職：株式会社相談役 (2023. 6. 28～現在に至る)	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	企業役員経験者として法人 全体の指導・助言
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	近畿大学工業高等専門学校
設置者名	学校法人近畿大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)は、教務部で作成した見本及び作成における注意事項を参考に、各授業担当者が作成する(2月)。その後、各コースにより、必要事項等の記載漏れがないことの確認が行われ、教務部に提出される(3月)。教務部にて必要事項等の再確認を行い、本校ホームページにて公表する。公表は年度初め(4月)に行う。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.ktc.ac.jp/cms/syllabus/">https://www.ktc.ac.jp/cms/syllabus/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果はシラバスに記載された成績評価方法・基準に従って客観的に評価している。</p> <p>評価事例①：機械コース4年 加工プロセス学 I a  <b>【成績評価方法及び基準】</b>                  種類：定期試験(1回)、方式：記述式                  定期考査成績：定期試験(100%)の評価割合で評価します。                  なお、「アーク溶接等特別教育」修了者は、アーク溶接に関する範囲を、「ガス溶接技能講習」修了者はガス溶接に関する範囲を免除します。                  最終成績：得点を100点満点に換算し60点以上を合格とします。なお、小数点以下は切り捨てます。                  再試験は、記述式の試験(1回)を実施します。                  再試験の合格基準は、試験(100%)の評価割合で60点以上を合格とします。</p> <p>評価事例②：機械コース4年 工作実習4  <b>【成績評価方法及び基準】</b>                  講義に関しては小テストで評価する。                  実習に関しては、レポート及び態度・協調性・積極性等を点数化して考慮の上評価する。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPAの客観的な指標の算出方法を設定、学生便覧及び本校ホームページにて公表している。また、前期及び後期に行う成績評価において、各授業科目の成績評価をまとめた一覧表を学生及び保護者に公開する際、併せてGPAも公開し、適切な実施に努めている。また、成績評価の際、QRコードも公開しており、学生・保護者に対して、GPAの説明及び指標の算出方法が閲覧できるようにしている。</p> <p>【GPAスコアの算出方法】</p> <p>GPAとは、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。なお、GPAの算出基礎になる科目は「履修した全ての科目」(ただし、インターンシップ等の合否判定となる科目を除く)を対象とします。</p> $\frac{4.0 \times (\text{秀の修得単位数}) + 3.0 \times (\text{優の修得単位数}) + 2.0 \times (\text{良の修得単位数}) + 1.0 \times (\text{可の修得単位数})}{\text{総履修単位数 (「不可」の単位数を含む)}}$ <p>(注1) GPAの計算は、小数点第2位以下を四捨五入するものとする。  (注2) 選択科目で、年度の途中で履修中止した場合は、計算式に含まません。</p> <p>によって算出します。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.ktc.ac.jp/disclosure/kutc/">https://www.ktc.ac.jp/disclosure/kutc/</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業認定・称号授与に関する方針(ディプロマポリシー)を策定し、学生便覧及び本校ホームページにて公表している。ディプロマポリシーでは卒業までに身に付けるべき資質を明確に定めている。これらについて、以下のような評価基準を作成し、身に付けるべき資質についての達成度を確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究(特別研究への取り組み状況、卒業論文(学修総まとめ科目成績評価、成果の要旨)、研究発表の評価)</li> <li>2. 単位取得状況とGPAによる評価</li> <li>3. 資格・免許の取得状況</li> <li>4. 学内外における諸活動の成果等</li> <li>5. 学修評価アンケート</li> </ol> <p>以上評価と学生便覧に示された卒業の要件を併せて、全専任教職員より構成される卒業判定会議により要件の確認、審議を経て、卒業の認定がなされる手順となっている。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.ktc.ac.jp/disclosure/policy/">https://www.ktc.ac.jp/disclosure/policy/</a>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	近畿大学工業高等専門学校
設置者名	学校法人近畿大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>
財産目録	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>
事業報告書	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人近畿大学事業計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/vision/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/vision/</a>
中長期計画(名称:学校法人近畿大学中期計画 対象年度:令和2年度~令和6年度)
公表方法: <a href="https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/vision/">https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/vision/</a>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.ktc.ac.jp/disclosure/tenken/">https://www.ktc.ac.jp/disclosure/tenken/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.ktc.ac.jp/disclosure/tenken/">https://www.ktc.ac.jp/disclosure/tenken/</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 総合システム工学科, 専攻科: 生産システム工学専攻
教育研究上の目的 (公表方法: <a href="https://www.ktc.ac.jp/disclosure/policy/">https://www.ktc.ac.jp/disclosure/policy/</a> )
(概要)  <b>【本科・専攻科】</b> 本学は、「未来志向の実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育の目的」は、知識基盤社会へ転換しようとする 21 世紀の日本において、いっそう必要とされるものであると自負します。本校が工業高等専門学校の特徴を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけではなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実に立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を発揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような技術者を社会に送り出すことが、これからの時代に本校が目指す社会的使命であります。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: <a href="https://www.ktc.ac.jp/disclosure/policy/">https://www.ktc.ac.jp/disclosure/policy/</a> <a href="https://www.ktc.ac.jp/disclosure/mokuhyou/">https://www.ktc.ac.jp/disclosure/mokuhyou/</a> )
(概要)  <b>【本科】</b> 本校は、近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」に則り、「社会に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者」の育成に努めます。所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、準学士の称号を授与します。卒業までに身に付けるべき学力や資質・能力は以下のとおりです。  1 工学の基礎知識と情報処理技術の修得 (1) 数学、物理など工学の基礎知識を身に付ける。 (2) 実験データの取集や報告書の作成にコンピュータを活用した情報処理技術を身に付ける  2 実践的問題解決とデザイン能力の修得 (1) 専門分野及び関連分野の基礎知識を修得し、専門分野の知識を問題解決に応用できる。 (2) ものづくりに必要な設計図面の作成や構想を具現化できるデザイン能力を身に付ける。  3 技術者に必要な価値観と倫理観の修得 (1) 自国や他国の文化や価値観を理解し、自然との調和を考慮した環境デザインができる。 (2) 社会人としての健全な人格形成と倫理観を身に付ける。

4 幅広い教養と豊かな人間性の修得

- (1) 人文科学、社会科学、自然科学の幅広い教養を身に付ける。
- (2) 協働学習を通じて「人に愛され、信頼され、尊敬される」豊かな人間性を身に付け、自らを成長させ続ける自己教育力を培う。

5 コミュニケーション能力の修得

- (1) 実験結果や報告書を分かりやすくまとめ、自分の考えを簡潔に伝えるプレゼンテーション能力を身に付ける。
- (2) 簡単な会話や読み書きができる外国語の基礎能力を身に付ける。

【専攻科】

本校は、近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」に則り、「社会の技術発展に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者」の育成に努めます。修了時に身に付けるべき学力や資質・能力は以下のとおりです。

1 高度な専門知識と情報活用能力の修得

- (1) 基礎となる数学、物理などの学力を身に付け、より高度な専門知識を修得する。
- (2) 収集した情報を整理して正しく分析及び評価できる情報活用能力を身に付ける。

2 協働的問題解決とエンジニアリングデザイン能力の修得

- (1) 専門分野と関連分野に造詣があり、問題解決に対して協働して計画の立案及び実行ができる。
- (2) アイデアや考えたものを具現化できる実践的なエンジニアリングデザイン能力を身に付ける。

3 技術者に必要な価値観と倫理観の修得

- (1) 探求心を併せ持った知的好奇心にあふれる技術者として、自主的かつ継続的に自己能力を高める。
- (2) 技術者倫理と人権感覚を身に付ける。

4 幅広い教養と豊かな人間性の修得

- (1) 人文科学、社会科学、自然科学に対して興味関心を持って知見を広げ、教養を高める。
- (2) 日常的問題から地球規模問題まで関心を持ち、多角的な視点を養う。

5 コミュニケーション能力の修得

- (1) 伝えたい内容を明確に表現する能力や論理的に発表や討論ができるプレゼンテーション能力を修得する。
- (2) 外国語でコミュニケーションがとれる基礎能力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ktc.ac.jp/disclosure/policy/>)

(概要)

【本科】

近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」に加えて、ディプロマ・ポリシーに挙げた学力や資質・能力を身に付けるために、学年及び専門コースごとに一般科目、自然科学科目、工学基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成します。

1. 工学の礎知識と情報処理技術を修得するための科目編成

(1) 工学の基礎知識を身に付けるために、数学や物理などを自然科学科目に、また工学概論を工学基礎科目に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

(2) コンピュータを活用した実験データの収集や報告書の作成ができるように、工学基礎科目に情報処理科目を設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

2. 実践的問題解決とデザイン能力を修得するための科目編成

(1) 専門コースへの円滑な導入を図るために、機械系、電気電子系、制御情報系、都市環境系、理数系に関する基本的な実験、実習を1・2年次の工学基礎科目に設けます。

(2) 専門知識を応用して問題を解決できるように、3年次から4つの専門コースに関する専門科目を設け、講義、演習、実験、実習等の複合的な学修方法を行います。

(3) 専門分野における設計・デザイン能力を身に付けるために、工学基礎科目に図学を配置し、3年次から設計・デザイン科目を各専門コースの専門科目に設け、講義、演習、実習を適切に組み合わせた学修方法を行います。

(4) 自主的な課題遂行能力を身に付けるとともに専門分野における調査や実験、論文作成、発表会を通して論理的思考力、文章作成能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を養成するために、5年次に卒業研究を設け、演習（ゼミナール）を主とした学修方法を行います。

3. 技術者に必要な価値観と倫理観を修得するための科目編成

(1) 自国や他国の文化や価値観の理解を深めるための科目を一般科目に設け、講義を主とした学修方法を行います。

(2) 健全な人格形成と倫理観を身に付けるための科目を一般科目に設け、講義を主とした学修方法を行います。

4. 幅広い教養と豊かな人間性を修得するための科目編成

(1) 幅広い教養を身に付けるために、一般科目と自然科学科目を各学年に体系的に配置し、講義や演習を主とした学修方法を行います。

(2) 人間性豊かな技術者へと自らを成長させ続ける自己教育力を養う科目を一般科目に設け、講義と実技を適切に組み合わせた学修方法を行います。

5. コミュニケーション能力を修得するための科目編成

(1) 伝えたい内容を適切に表現できる能力を身に付けるために、表現力を養う科目を一般科目及び専門科目に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

(2) グローバル社会で活躍できるように、各学年に実践的英語科目を設けるほか、第二外国語科目（中国語・韓国語）を一般科目に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

**【専攻科】**

本校は、近畿大学の「建学の精神」と「教育の目的」に加えて、ディプロマ・ポリシーに挙げた学力や資質・能力を身に付けるために、一般科目、関連科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成します。

1. 高度な専門知識と情報活用能力を修得するための科目編成

(1) より高度な専門科目の知識を身に付けるために、数学や物理・化学の応用を含む関連科目を設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

(2) 情報活用能力を身に付けるための高度な情報処理科目を共通専門科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

2. 協働的問題解決とエンジニアリングデザイン能力を修得するための科目編成

(1) 専攻した専門分野の先端技術に即応できる能力を育成するために、工学専門科目を設け、講義、演習、実験、実習等の複合的な学修方法を行います。

(2) 専攻した専門科目の理解をより深め、洞察力を身に付けるために、工学専門科目内に工学実験を設けます。

(3) 問題解決にチームで活動するための協調性とエンジニアリングデザイン能力を身に付けるために、工学専門科目内に工学演習を設けます。

(4) 実践的な問題に対し自発的に考えるとともに、解決に向けて計画を立案し、継続的に実行する研究開発能力を養成するために、生産システム工学特別研究を設け、演習（ゼ



ミナール) を主とした学修方法を行います。

3. 技術者に必要な価値観と倫理観を修得するための科目編成

(1) 最新の技術に興味を持ち、自主的かつ継続的に自己能力を高める科目を工学専門科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

(2) 技術者倫理と人権感覚を身に付けるために必要な科目を一般科目内に設けます。

4. 幅広い教養と豊かな人間性を修得するための科目編成

(1) 教養を高めるために、人文科学・社会科学・自然科学に関する科目を一般科目及び関連科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

(2) 環境と共存しつつ社会が発展するための多角的な視点を養う科目を共通専門科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

5. コミュニケーション能力を修得するための科目編成

(1) 論理的文章の作成や説得力のある話し方を身に付けるために日本語表現の科目を一般科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

(2) 日常からアカデミックまでに対応できる英語4技能(読解、作文、聴解力、会話力)を修得し、国際的に活躍するために、総合的な英語科目を一般科目内に設け、講義や演習を主とした学修方法を行います。

入学者の受入れに関する方針  
(公表方法：<https://www.ktc.ac.jp/disclosure/policy/>)

(概要)

**【本科】**

本校は、人格教育と実社会に役立つ教養と専門的知識の育成に努め、創造力あふれる技術者の養成を目指しています。この目標を達成するために、主体性を持って学べる姿勢のある次のような人の入学を期待します。

- 1 興味や関心のある工学専門分野を学ぶために必要な基礎学力を持っている人。
- 2 ものづくりや実験の実学を通して技術や専門知識を身に付け、社会で活躍したい人。
- 3 技術的な問題点の解決や、考えたことを実現したい人。
- 4 部活動、ボランティア活動、特別活動、学校行事など進んで参加して多様な人々と協力できる人。

#### 入学者選抜方針

入学者の選抜は、多様な学生を選抜するため、

A 日程では、特進推薦入学試験、学校長推薦入学試験、専願 A 入学試験

B 日程では、専願 B 入学試験、併願入学試験、帰国生徒入学試験

C 日程では、C 日程入学試験

を行います。

A 日程では、中学校を卒業見込みで出願要件を満たした生徒を対象とします。

特進推薦入学試験の選抜は、特別進学コースの学習に必要な学力と適性を提出書類(推薦書・調査書)及び学科試験(英語・数学・理科)の結果から評価するとともに面接結果と併せて総合的に評価します。なお、特進推薦入学試験が不合格の場合で出願時に学校長推薦入学試験を第2希望として選択しているときは、学校長推薦入学試験出願と同じ扱いで再選抜します。

学校長推薦入学試験の選抜は、一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類(推薦書・調査書)から評価し、面接結果と併せて総合的に評価します。

専願 A 入学試験の選抜は、一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類(調査書)及び学科試験(英語・数学・理科)の結果から評価するとともに面接結果と併せて総合的に評価します。

B 日程では、中学校を卒業見込みの生徒又は中学校を卒業した生徒を対象とします。

専願 B 入学試験及び併願入学試験の選抜は、特別進学コース又は一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（調査書）と学科試験（英語・数学・理科・国語・社会）の結果から評価します。また、専願 B 入学試験においては面接結果も併せて総合的に評価します。なお、特別進学コースが不合格の場合は、一般コース入学試験と同じ扱いで再選抜します。

帰国生徒入学試験の選抜は、出願要件を満たす生徒で、一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（調査書）及び学科試験（英語・数学）の結果から評価するとともに面接結果と併せて総合的に評価します。

C 日程入学試験では、中学校を卒業見込みの生徒又は中学校を卒業した生徒で出願要件を満たしかつ学業あるいは課外活動等で秀でた実績を上げ、自分自身を強くアピールできる生徒を対象とします。選抜は、一般コースの学習に必要な学力と適性を提出書類（調査書）及び作文から評価するとともに面接結果と併せて総合的に評価します。

学科試験は、記述式方式で学力や適性を評価するだけでなく、思考力、判断力、表現力を問う問題も出題します。また、B 日程入学試験の国語では、志望理由や入学後の抱負、ものづくりに対する興味等について述べる問題も出題します。

面接試験は、志望動機だけでなく、科学技術やものづくりに対する興味や学習意欲、コミュニケーション能力、協調性、チャレンジ精神、リーダーとしての経験、主体性を持って多様な人々と協働した経験なども評価します。

### 編入学者選抜方針

本校は、社会に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者の育成を目指しています。この目標を達成する高い可能性を持った生徒の選抜を行います。

多様な学生を選抜するため、指定校推薦編入学試験、学校長推薦編入学試験、一般編入学試験、自己推薦編入学試験を行います。

指定校推薦編入学試験の選抜は、受験資格を満たし、高等学校の在籍学科・コースと受験コースが同一でかつ本校が指定する学校長が責任を持って推薦した学生で、学習意欲や目的、適性について提出書類（志望理由書・調査書）から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、主体性を持って多様な人々と協働した経験、受験コースの学習に必要な基礎的学力についての面接を行い、総合的に評価します。

学校長推薦編入学試験の選抜は、受験資格を満たし、学校長が責任を持って推薦した生徒で、受験コースの学習に必要な基礎的学力と適性、学習意欲や目的について提出書類（志望理由書・調査書）から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、主体性を持って多様な人々と協働した経験、受験コースの学習に必要な基礎的学力と専門知識についての面接を行い、総合的に評価します。

一般編入学試験の選抜は、受験資格を満たし、各コースの学習に必要な共通の基礎的学力について記述式の学科試験（英語・数学）と特定の科目ではない文献や資料に対する考えや、これまでに身に付けたスキルや経験、多様な人々と協働した経験について論述試験の結果及び適性について提出書類（調査書）から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、受験コースの専門知識について面接を行い、総合的に評価します。

自己推薦編入学試験の選抜は、受験資格を満たし、学習意欲や目的、学業あるいは課外活動等で一芸に秀でた実績や成績についての自己アピールと受験コースの学習に必要な学力及び適性を提出書類（自己推薦書・調査書）から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、主体性を持って多様な人々と

協働した経験、受験コースの学習に必要な基礎的学力と専門知識について面接を行い、総合的に評価します。

#### 外国人留学生編入学考査方針

本校は、社会に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の知識と工学的素養をもって、考えたものを実現していく創造力あふれる実践的技術者の育成を目指しています。

この目標を達成する高い可能性を持った外国人留学生を選抜するため、外国人留学生編入学試験を行います。選抜は、受験資格を満たした外国人留学生で、各コースの学習に必要な共通の基礎的学力について記述式の学科試験（英語・数学）と適性について提出書類から評価します。また、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、主体性を持って多様な人々と協働した経験、受験コースの学習に必要な基礎的学力と専門知識について日本語で面接を行い、入学後の生活や学習に必要な日本語能力とともに総合的に評価します。

#### 【専攻科】

本校は、人格教育と実社会に役立つ教養と専門的知識の育成に努め、創造力あふれる技術者の養成を目指しています。この目標を達成するために、主体性を持って学ぶ姿勢のある次のような人の入学を期待します。

- 1 新しい技術や諸問題に関心を持ち、継続的かつ自主的に考える姿勢がある人。
- 2 工学の基礎的学力を有し、ものづくりに意欲をもって取り組める人。
- 3 技術的な問題点の解決や、考えたことを実現し、社会で活躍したい人。
- 4 コミュニケーション能力があり、チームで諸問題に対応できる人。

#### 入学考査方針

本校では、社会の技術発展に貢献するための広い視野からものづくりを考え、それぞれの専門分野の高度な知識と幅広い工学的素養をもって、考えたものを実現していく開発型技術者の育成をめざしています。

この目標を達成する高い可能性を持った学生の選抜を行います。多様な学生を選抜するため、推薦入学試験、一般入学試験、自己推薦入学試験を行います。

推薦入学試験の選抜は、出身学校長が責任を持って推薦した学生で、学修意欲や目的、適性について提出書類（志望理由書・調査書）から評価するとともに、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、専攻科の学修に必要な工学の基礎的学力についての面接を行い、総合的に評価します。

一般入学試験の選抜は、専攻科の学修に必要な工学の基礎的学力と適性について記述式の学科試験（英語・数学）の結果及び提出書類（調査書）から評価するとともに、学修意欲や目的、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性について面接を行い、総合的に評価します。

自己推薦入学試験の選抜は、出願要件を満たしかつ自分自身を強くアピールできる学生で、学業あるいは課外活動等で秀でた実績、学修意欲や目的、適正について提出書類（自己推薦書・調査書）から評価するとともに、自己推薦書内容の詳細、科学技術やものづくりに対する興味や関心、コミュニケーション能力、協調性、専攻科の学修に必要な工学の基礎的学力についての面接を行い、総合的に評価します。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ktc.ac.jp/course/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	校長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
総合システム工学科	—	15人	16人	5人	2人	0人	38人
専攻科 生産システム工学専攻	—	8人	12人	4人	1人	5人	30人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				59人			59人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="https://www.ktc.ac.jp/research/research/">https://www.ktc.ac.jp/research/research/</a>					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
令和5年度のFD研修会として、「私立学校法の改正について」を行った。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合システム 工学科	160人	117人	73.1%	800人	746人	93.3%	0人	7人
専攻科 生産システム 工学専攻	18人	13人	72.2%	36人	24人	66.7%	0人	0人
合計	178人	130人	73.0%	836人	770人	92.1%	0人	7人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合システム 工学科	166人 (100%)	30人 ( 18.1%)	129人 ( 77.7%)	7人 ( 4.2%)
専攻科 生産システム 工学専攻	14人 (100%)	1人 ( 7.1%)	13人 ( 92.9%)	0人 ( 0%)
合計	180人 (100%)	31人 ( 17.2%)	142人 ( 78.9%)	7人 ( 3.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 豊橋技術科学大学、長岡技科大学、京都芸芸繊維大学、山口大学、近畿大学、東海旅客鉄道㈱、関西電力㈱、本田技研工業㈱、鹿島建設㈱、NTT西日本				
(備考) 総合システム工学科は5年間教育のため、卒業生の約8割が就職、約2割が編入学等で進学します。令和5年度は例年より進学者の割合が若干多い結果となりました。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合システム 工学科	175人 (100%)	151人 (86.3%)	4人 (2.3%)	20人 (11.4%)	0人 (0%)
専攻科 生産システム 工学専攻	15人 (100%)	14人 (93.3%)	0人 (0%)	1人 (6.7%)	0人 (0%)
合計	190人 (100%)	165人 (86.8%)	4人 (2.1%)	21人 (11.1%)	0人 (0%)

（備考）中途退学者について、1年次2人、2年次4人、3年次12人、4年次2人、5年次0人。3年退学者12名の内、2人が学力不振、10人が大学・専門学校等への進路変更が理由です。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

授業計画（シラバス）は、教務部で作成した見本及び作成における注意事項を参考に、各授業担当者が作成する（2月）。その後、各コースにより、必要事項等の記載漏れがないことの確認が行われ、教務部に提出される（3月）。教務部にて必要事項等の再確認を行い、本校ホームページにて公表する。公表は年度初め（4月）に行う。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

卒業認定・称号授与に関する方針（ディプロマポリシー）を策定し、学生便覧及び本校ホームページにて公表している。各コースのカリキュラムとディプロマポリシーは関連を持たせて運用されているため、適切な実施がなされている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	総合システム工学科	169単位	有・無	規程なし
	専攻科 生産システム工学 専攻	62単位	有・無	規程なし
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： <a href="https://www.ktc.ac.jp/disclosure/kutc/">https://www.ktc.ac.jp/disclosure/kutc/</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： <a href="https://www.ktc.ac.jp/cms/anketo/">https://www.ktc.ac.jp/cms/anketo/</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.ktc.ac.jp/about/map/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	総合システム工学科 1年	520,000円	200,000円	0円	
	2年	520,000円	0円	0円	
	3年	520,000円	0円	0円	
	4年	1,084,000円	0円	0円	
	5年	1,084,000円	0円	0円	
	編入4年	1,084,000円	200,000円	0円	
	編入5年	1,084,000円	0円	0円	
	専攻科 生産システム工学 専攻1年	1,084,000円	200,000円 内部進学 100,000円	0円	
	専攻2年	1,084,000円	0円	0円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 難関大学を目指して受験勉強をする学生向けに、特別進学コースを設置しています。(技術者を目指し、3年生から専門コースに分かれる点は、一般コースと同じです。)特別進学クラスでは充実した教育システム、充実した環境、充実した指導や講義を受けることができます。 <a href="https://www.ktc.ac.jp/course/tokushin/">https://www.ktc.ac.jp/course/tokushin/</a> また、本校は、5月に前期授業料等を請求しております。給付奨学金の申請者につきましては、給付額が確定するまで、授業料の納入を猶予する措置を行っております。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 就職・進学等の進路指導を担当する部署である進路指導部を設置しています。 本科の就職について：電力・ガスやJR各社などの基幹産業に多数就職しており、近畿大学工業高等専門学校で身に付けたことが生かせる技術者として活躍しています。 本科の進学について：専攻科、国立大学、近畿大学、その他有名私立大学の3年次に編入学が可能です。 専攻科の進路について：有名企業への就職や大学院に進学しています。 <a href="https://www.ktc.ac.jp/shinro/">https://www.ktc.ac.jp/shinro/</a>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 保健管理センターでは、学生の皆さんが健康的な学生生活をおくるために必要な健康管理、応急手当、健康相談等を行っています。 1. 応急手当 2. 学生の定期健康診断を実施 3. 医療費給付申請書の受付 4. 健康診断書の発行 5. 健康相談 <a href="https://www.ktc.ac.jp/students/hokenkanri/">https://www.ktc.ac.jp/students/hokenkanri/</a>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ktc.ac.jp/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	G124310107270
学校名 (〇〇大学 等)	近畿大学工業高等専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 近畿大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		38人	35人	39人
内訳	第Ⅰ区分	19人	25人	
	第Ⅱ区分	—	—	
	第Ⅲ区分	—	—	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				40人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数



	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	—
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	—	0人
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。